

平成29年3月31日

平成28年度柏崎市大学・地域連携推進事業 成果報告書

課題名：柏崎の観光魅力の発見・発信のための商品企画と調査研究

新潟産業大学 経済学部文化経済学科

教授 金 光林

1. 事業の目的と課題

柏崎の観光の魅力を発見し、外部に積極的に発信するために行う商品企画・研究調査である。事業の課題は「柏崎の観光の魅力の発見・発信のための商品企画と研究調査」であり、下記の四つの内容を推進する予定であった。

- ①良寛と貞心尼が交わした和歌（贈答歌）をテーマにしたクッキーセットの企画・商品化
- ②良寛と貞心尼の歌物語めぐりの観光プランの企画。
- ③柏崎の谷根川の鮭の放流と遡上について、自然環境と人間の共生を体験できる場所として、地域の観光のスポットとしてさらに活用するための調査研究。
- ④柏崎の椎谷海岸に江戸時代の後期に漂着した木の杭は、柏崎を中国と朝鮮半島と繋げる歴史のロマンの素材であり、椎谷海岸にこの木の杭の漂着譚を伝えるモニュメントを建立するための調査研究。

2. 事業の成果

①「良寛と貞心尼の歌物語」クッキーセットの商品化の実現（平成28年9月下旬）
課題①の良寛と貞心尼が交わした和歌（贈答歌）をテーマにしたクッキーセットについては平成27年の春から新潟産業大学の金ゼミナールが商品の企画を練り、新潟工科大学デジタルデザイン研究室の技術支援（てまりクッキーの型の製作）、株式会社ブルボンと最上屋、柏崎社会福祉法人ロングランの協力を得て平成28年9月下旬に商品化を実現した。

そして、柏崎市内と新潟産業大学のイベント（飯塚邸での竹あかりまつり、新潟産業大学の学園祭、柏崎農業まつりなど）で広報・販売し、好評を得た。現在、柏崎市の最上屋、柏崎社会福祉法人ロングランの店舗以外に、柏崎のホテル・温泉などの売店、じょんのびの里高柳・西山ふるさと公苑・良寛の里わしま・越後出雲崎天領の里・国上などの道の駅、出雲崎の良寛記念館、長岡市和島の良寛の里美術館、長岡の観光コンベンション協会のまちなか観光プラザなどで販売中である。昨年の9月下旬に出荷されてから、今年の3月末

の時点で 1,200 箱程度の売上を達成し、その販売ルートの開拓は大半を私が行った。

「良寛と貞心尼の歌物語」クッキーセットの商品化の実現によって、江戸時代後期に越後の地で生まれた良寛と貞心尼の優れた歌物語を多くの人々に知ってもらうきっかけが生まれ、優れた女流歌人でありながら良寛の影に隠れがちであった貞心尼という地域の人物をクローズアップすることができたと思われる。そして、このクッキーセットの商品の詰め合わせと販売を社会福祉団体に依頼することによって、社会福祉事業を支援する意味合いも持つようになった。

新潟産業大学経済学部の金ゼミナールは、平成 27 年の「縄文クッキーおうくんとかえんちゃん」の商品化の実現、平成 28 年の「良寛と貞心尼の歌物語」クッキーの商品化の実現によって、新潟県異業種交流センターより地域文化の PR と社会福祉事業の支援が認められて、平成 29 年 2 月 25 日に当交流センター主催の「第 14 回地域活性化大賞」の奨励賞を受賞した。

「縄文クッキーおうくんとかえんちゃん」「良寛と貞心尼の歌物語」クッキーの商品化の実現によって、この二つの商品は新潟県内の柏崎市・長岡市・十日町市・出雲崎町・燕市の多くの場所で販売されるようになり、新潟産業大学の学生たち、特に私が指導するゼミナールの学生たちが地域の縄文文化と江戸時代文化について勉強し、理解を深める機会を提供し、商品の企画・デザイン・広報・流通について実践的に勉強する機会も提供できた。

課題②の良寛と貞心尼の歌物語めぐりの観光プランの企画は新潟産業大学の金ゼミナールが行い、平成 27 年 12 月に株式会社柏崎タクシーの旅行センターに依頼し、1 泊 2 日の観光プランとして 2 案を作成し、さらに平成 28 年 12 月に株式会社柏崎タクシーの旅行センターに依頼し、改善案を作成した。そして、この観光プランを以って平成 29 年 1 月に「新潟県観光 PR アイデアコンテスト 2017」に応募した。265 件にも及ぶ多数の応募があった中で入選までに至らなかったが、この観光プランをさらに改善しながら、このアイデアが地域で生かされる道を探りたい。柏崎の観光事業に詳しい方から良寛と貞心尼の歌物語ツアーリゾートに柏崎の木喰仏巡りも追加したらよいというご意見もいただいたので、前向きに検討したい。

今後、柏崎市観光課、観光協会と相談しながら、この観光プランの内容をさらに改善し、柏崎・出雲崎・長岡地域のモデル観光コースとして生かされる道を探りたい。

課題③は谷根川の鮭の遡上と放流については、昨年の夏頃から私が現地を度々訪ねながら研究調査を行った。その過程で、新潟産業大学の私が担当する「観光資源論」の授業の一環として谷根川の鮭の遡上を見学し、私が指導するゼミナールの学生たちと谷根川の秋の「さけ豊漁まつり」、春の「さけ放流式」にも参加し、学生たちに谷根川の鮭の遡上と放

流の意義について理解を深めさせることができた。

そして新潟産業大学の私が指導するゼミナールの学生たちと谷根川の鮭の遡上と放流についてPRする広報チラシとポスターを平成28年11月に制作し、柏崎市のさけのふるさと公園、柏崎駅、柏崎市観光案内所、柏崎市市民プラザ、市民会館、新潟産業大学と新潟工科大学、新潟産業大学附属高等学校、柏崎市と長岡市、出雲崎町、魚沼市などの道の駅、観光施設などに配置、掲示した。この広報チラシとポスターは数年間使用する分量を印刷したので、今後も上記の場所などで配置、掲示を続けたい。

谷根川の鮭をテーマとするイベントに地域の大学がかかわることに意義があると思われるので、今後、春の「さけ放流式」、青海川の海岸清掃活動、秋の「さけ豊漁まつり」、植林事業に新潟産業大学の学生たちと参加する予定である。そして谷根川の鮭の遡上と放流をテーマとする写真コンテストも構想した。柏崎市農林水産課、米山コミュニティセンターと相談し、協力体制ができ持続の可能性があれば、平成29年度から実施を試みたい。

課題④の椎谷海岸に江戸時代の後期に漂着した木の杭（この木の杭の胴体には「峨眉山下橋」という銘文が刻まれ、現在、高柳町の貞觀園に所蔵され、柏崎市文化財に指定されている）については、柏崎を中国と朝鮮半島と繋げる歴史のロマンの素材であることに着目した、椎谷海岸にこの木の杭の漂着譚を伝えるモニュメントを建立するための調査研究である。この木の杭の漂着譚についてはすでに私が詳細な調査を行い、東京大学比較文学会編『比較文学研究』第101号（平成28年6月刊行）に「十九世紀に海を渡った一本の木の漂木の文化的・民俗的意味」という論文を執筆した。そして平成27年11月27日の「第84回柏崎市都市計画審議会」において椎谷海岸にこの木の杭の漂着譚を伝えるモニュメントを建立することを提案した。

椎谷海岸にこの木の杭の漂着を伝えるモニュメントを建立する案を提案するために、昨年の秋から今年の3月にかけて柏崎市の椎谷地区を度々訪問して現地調査を行い、椎谷町内会の関係者の意見も聴取し、新潟工科大学の関係者にも相談した。そこから椎谷海浜公園に海外からの木の杭の漂着譚を伝える看板（正面に漂着譚について説明する文を入れ、裏面にこの木の杭の漂着に関する良寛の和歌2首と漢詩1首、鈴木牧之の漢詩1首を入れる）を建てる案をまとめ、株式会社植木組の紹介で、長岡の株式会社カシコー広告部に看板の見取図と見積もりを依頼した。近日中に提出される予定であり、推算では20数万円程度の予算でスチール材の看板を建立できるという。

柏崎市の景観計画にも椎谷地区の歴史文化性を重視しているので、海外からの木の杭の漂着譚を伝える看板を建立することで、この地域の埋もれた歴史の話題に光を当て、柏崎与中国と朝鮮半島との歴史的・文化的結びつきを感じる場所として、歴史のロマンとミステリーを感じる場所として活用できる可能性がある。

3. 今後の課題と提案

昨年度に柏崎市大学・地域連携推進事業を受託し、柏崎の観光魅力の発見・発信のための商品企画と調査研究を行ったことにより、私としては柏崎に対する理解を深めることができたし、新潟産業大学での授業と私が指導するゼミナールの学外活動を通して、学生たちにも柏崎に対する理解を深めさせることができた。そして昨年度の課題をさらに深化させたいという意欲と新たな課題への発見にも至った。

「良寛と貞心尼の歌物語」クッキーは柏崎・長岡・出雲崎地域で販売網を開拓し、一定の売上も達成した。この販売網を維持し、地域社会でこの商品が定着していくことが今後の課題である。そのための商品の広報と販促活動をしばらく続ける必要がある。

「良寛と貞心尼の歌物語」クッキーは柏崎の地元の2大学が連携し、地元の製菓会社と社会福祉団体が協力して実現した地域コラボレーション商品である。商品企画の趣旨は地域の優れた文化のPRにあり、いまのところ地域社会で好評を得ている。そこでこのクッキーを柏崎市のふるさと納税のお礼品として採用してもらえないか、柏崎市と柏崎市商工会議所に相談したい。

谷根川の鮭をテーマとする観光資源は規模こそ大きくないが、魅力的な要因を備えている。海から小川へ鮭が遡上する全過程が身近で観察できるし、鮭の生命の躍動感をリアルに感じる場所が谷根川である。さらに周辺の自然景観が風光明媚で、天恵的な条件を備えている。この条件はある意味では村上市の三面川と種川の鮭をテーマとする観光資源より優れた面もある。そこで、谷根川に鮭が遡上するシーズンに周辺の風光明媚な自然探訪とリンクさせる観光コースを設けて、推奨し、実施を試みる必要もありそうである。笠島の5号トンネルと呼ばれる鉄道の廃棄トンネルは意外性のある場所であり、柏崎の海岸探訪に一味を加えることができそうである。こういう観光資源の発見・発信を今後、新潟産業大学の学生たちと一緒に続けていきたい。

柏崎の椎谷海浜公園に江戸後期に漂着した木の杭の漂着譚を伝える看板を建立する案をまとめているので、これから柏崎市と柏崎市の公益団体に働きかけながら建立を目指したい。

「良寛と貞心尼の歌物語」クッキーを西山ふるさと公苑に納品している関係で、この施設を度々訪れることになり、西山ふるさと公苑と近隣の田中角栄記念館は日中交流と中国文化体験施設として貴重な資産であると認識するようになった。そこでその価値を活用する方法を探り、地域の大学が関わりながら行えるイベントを提案したいと考えている。